

理想科学工業株式会社

本社 / 〒108-8385 東京都港区芝五丁目34番7号 田町センタービル

[お問い合わせ先] 環境活動推進部

Tel. 029-889-2527 Fax. 029-889-2530

E-mail: info@riso.co.jp URL: <http://www.riso.co.jp/>

環境経営
報告書

2016

表紙のことば

【木の花／イチョウ】

温室効果ガスの排出を抑え、地球温暖化を防止することは、そこに暮らす生き物に共通の課題です。低炭素社会を実現し美しい環境を次世代につないでいく象徴として「木の花」を選びました。表紙の花はイチョウです。イチョウは雄木と雌木があり、ひとつの木に両方の花は咲きません。しかし非常に繁殖力が強く、成長が早い植物で、戦後、一面の焼け野原になってしまった東京で、一番初めに芽吹いた木がイチョウでした。

新村則人



NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構(CUDO)から認証を取得しています。
ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。
本冊子は、環境への影響に配慮したライスインキとFSC®認証紙を使用しています。



「環境経営報告書 2016」をお読みいただく皆様へ

編集方針

理想科学は、2004年に「環境報告書」を発行し、以降、当社の環境保全活動についてご報告してまいりました。2006年からはタイトルを「環境経営報告書」と変更し、環境や社会とのかかわりが経営にどのように反映されているかを、わかりやすくお伝えしています。

本冊子版では2015年度に行った活動成果を中心に簡潔にまとめることで、わかりやすい報告をめざしました。例年と同様に、情報が正確に伝わるよう、認識しやすい配色としたカラーユニバーサルデザインを取り入れて制作。さらに、孔版印刷用インクとしては初となる国産米ぬかを使用したインクの発売にあわせて、本冊子版の印刷を大豆油インキからライスインキに切り替えました。

【情報開示の考え方】

理想科学では、各メディアの特性をふまえて、環境経営情報を以下のように報告しています。



冊子版

本冊子では、2015年度に行った取り組みを中心にステークホルダーの皆様にお伝えしたい内容を簡潔にまとめています。本冊子版はWebサイトに掲載しているPDF、電子ブックでもご覧いただけます。
(http://www.riso.co.jp/eco_report/)



Webサイト

「環境経営報告書 2016」に関連する各種詳細データを「データブック」として掲載しているほか、理想科学グループの取り組みを網羅的に報告しています。冊子版では掲載できなかった情報および過去から継続している取り組み、その他企業情報（製品・サービス・財務情報など）をご覧いただけます。
※ Webサイト掲載情報については、P.19をご覧ください。
(<http://www.riso.co.jp/>)



● 報告対象範囲

国内については、理想科学工業株式会社および理想沖縄株式会社の全事業所ならびに全営業拠点を報告の対象範囲としています。海外については、理想科学グループの生産拠点を環境負荷データの対象範囲とし、非生産事業所の電力、燃料（社有車燃料を含む）、水の使用量についても一部対象範囲としています。なお、データ集計範囲が異なる場合がありますので、各データに記載の集計範囲をご覧ください。

● 報告対象期間

2015年4月1日から2016年3月31日まで。ただし、この期間以前もしくは以降の活動内容も一部含まれます。

● 発行年月

2016年7月
※次回発行は2017年7月を予定しています。

● 参考としたガイドライン

- 「環境省環境報告ガイドライン2012年版」

● 期間中の主な変化

- 2015年4月にシンガポールに販売子会社を設立
- 2015年6月にトルコに販売子会社を設立
- 2015年6月に新興国市場向けデジタル印刷機「RISO CV3230」を発売
- 2016年3月にコンパクトな本体サイズの高速カラープリンター「オフィスFWシリーズ」を発売

CONTENTS

編集方針	1
ごあいさつ	3
理想科学の環境方針 環境への取り組み姿勢	
理想科学について	5
会社概要 事業拠点一覧 会社データ 業績ハイライト 主な製品 理想科学のあゆみ	
特集 インク環境配慮設計 速くて・きれいに！を実現する 人にも環境にもやさしいインクを開発	9
環境への取り組み	11
社会とのかかわり	13
海外での取り組み	16
マネジメント 環境マネジメント	17 18
Webサイト掲載情報 第三者審査報告書	19 20

理想科学
「あゆみ」

特集

環境への
取り組み

社会と
のかかわり

海外での
取り組み

環境
マネジメント

Web
サイト掲載
報告書

利便性向上と 環境負荷の低減を両立する 製品・サービスの開発を 推進しています。

代表取締役社長 **羽山 明**



平素は当社事業にご理解・ご支援を賜りありがとうございます。
ごあいさつ申し上げます。

「環境経営報告書2016」をお届けするにあたり、ご
あいさつ申し上げます。

理想科学は、「美しい健全な環境を次世代に引き継
ぐために地球的規模での環境保全に貢献する」ことを
「理想環境憲章」に掲げ、環境負荷の低減に向けた活動を
推進しております。

当社がメーカーとして、製品の開発・生産・販売活動を
進めていく過程で、そしてお客様が当社の製品をご活用
いただく過程でなんらかの地球資源が消費され、またさ
まざまな廃棄物が生まれています。このことを十分に認
識して、利便性の向上と環境負荷の低減を両立できるよ
うな製品やサービスを創出し、お客様にご提供し続ける
ことがわれわれの責務であると考えております。

さて、当社は平成28(2016)年に高速カラープリン
ター オルフィス「FWシリーズ」「GDシリーズ」を発売
します。

これらの製品については、世界各国の環境法規制や
環境ガイドラインへの対応を開発ステージから強化
し、製品のライフサイクルを通して人体と環境への影
響に配慮した設計を進めました。その結果、ドイツの
環境ラベル「ブルーエンジェル」、アメリカの環境ラベ
ル「EPEAT」のシルバー基準に適合いたしました。

今後もお客様のオフィスワークの生産性向上と環
境負荷の低減、安全性を両立した製品・サービスの開
発を推進して参ります。

本報告書は、当社の環境への取り組みやお客様をは
じめとするステークホルダーの皆様との社会的なか
かわり、そして健全な企業活動の礎であるコンプライ
アンスやコーポレートガバナンスについて説明して
います。ぜひご一読いただき率直なご意見をお寄せく
ださいようお願い申し上げます。

2016年7月
代表取締役社長
羽山 明

理想科学の環境方針

環境への取り組み姿勢を明確に示した「理想環境憲章」ならびに「環境行動指針」を制定し、
理想科学は、全社を挙げて環境保全活動を推進しています。

理想環境憲章

理想科学工業株式会社は、優れた製品の開発を通して社会に貢献することを基本理念とし、加えて地球社会の一員であるこ
とを深く認識し、美しい健全な環境を次世代に引き継ぐために地球的規模での環境保全に貢献するよう努めます。

環境行動指針

1. 環境に配慮した製品の開発

製品の開発・設計の段階から生産、流通、使用、リサイク
ル、廃棄などの各段階を考慮し、トータルでの環境負荷
を低減するよう方針を策定し、実行する。

2. 省資源、省エネルギー

事業活動によって生じる環境への影響を調査、検討し、環
境負荷を低減するよう、省資源、省エネルギーに努める。

3. 地域の環境保全

国、地方自治体などの環境規制等を遵守することにとど
まらず、事故等の緊急事態に備えて汚染の可能性を検討
し、予防する。

4. グローバルな視野での対応

海外事業活動および製品輸出に際しては、現地の環境に与え
る影響に配慮し、現地社会の要請に応えられるよう努める。

5. 継続的な改善

環境管理の組織、制度を整備し、環境目的・環境目標を設定し
て、継続的な改善活動を実施する。

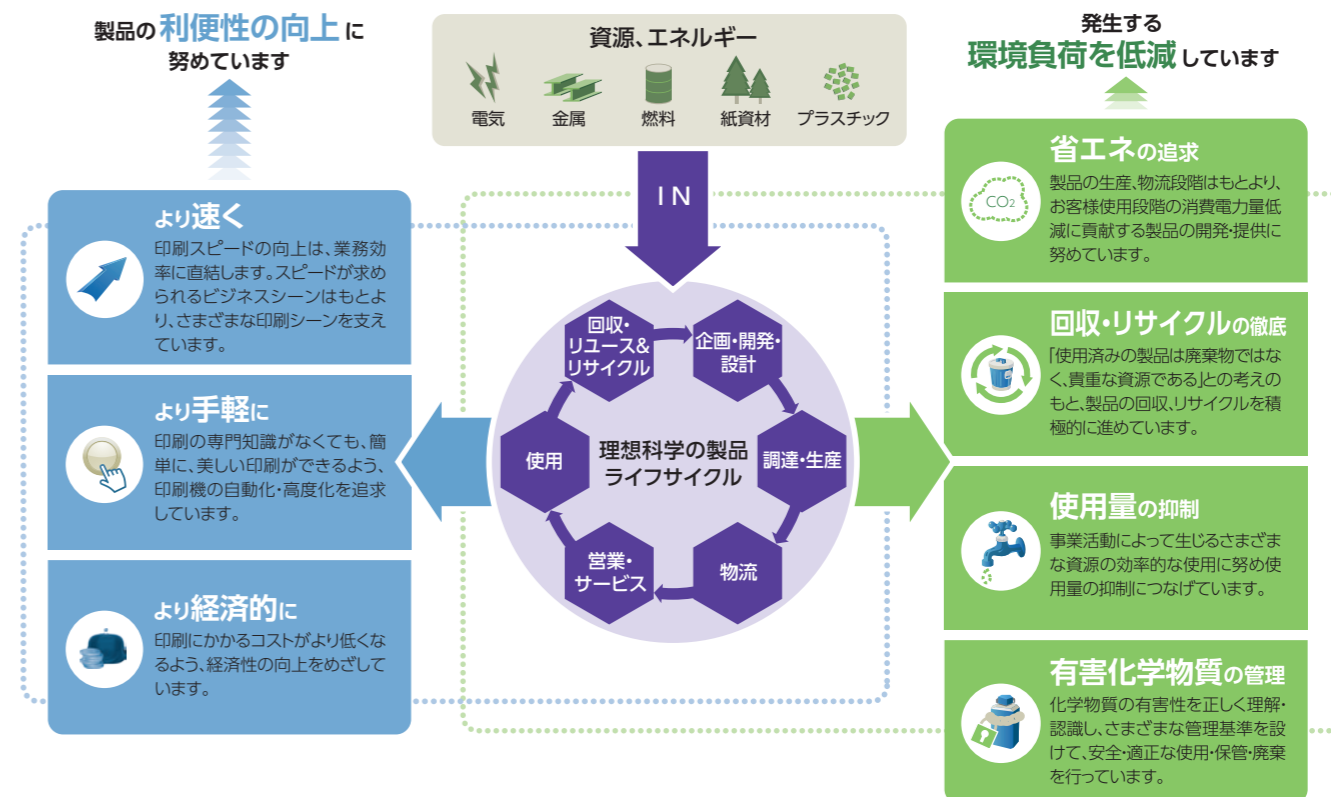
6. 環境教育と情報公開

環境について全従業員が見識を深めることができるよ
う、当環境憲章および行動指針を元に適切な教育や広報
活動をおこなうと同時に、環境活動状況を積極的に一般
公開し、社会との連携により一層の環境負荷の低減に努
める。

平成10年8月28日制定
平成19年4月1日改定
代表取締役社長 **羽山 明**

環境への取り組み姿勢

製品の「利便性向上」と「環境負荷低減」の両立を追求しています。



理想科学について

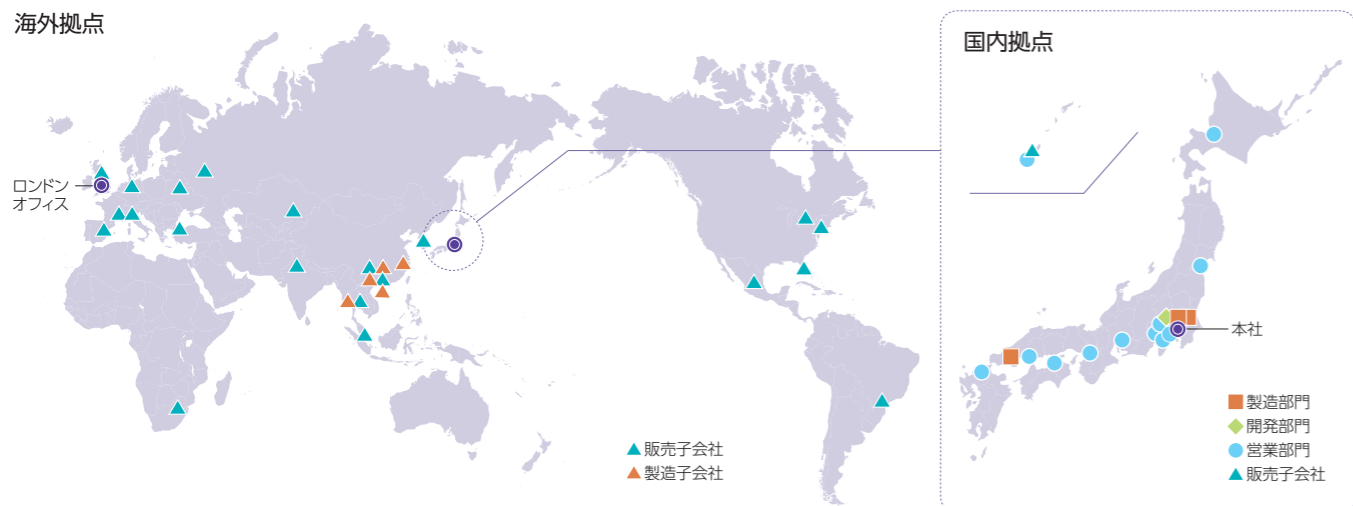
プリントソリューションで社会の課題を解決

「世界に類のないものを創る」という開発ポリシーを持つ理想科学は、オフィスを中心に社会のさまざまな課題を解決する独自のプリントソリューションをお届けしています。その独創性と使いやすさは世界各国のお客様に支持されています。世界180以上の国や地域で理想科学だからこそ可能な新しい価値の提供を続けています。

会社概要 (2016年3月31日現在)

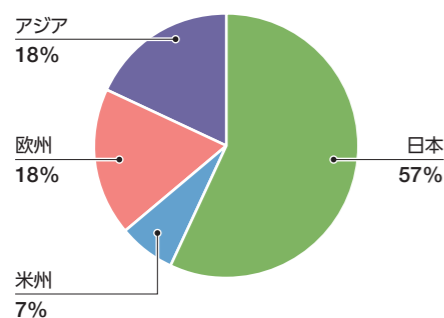
社名	理想科学工業株式会社 (RISO KAGAKU CORPORATION)	資本金	14,114百万円
創業	1946年(昭和21年)9月2日	連結業績 (平成28年3月期)	売上高:854億5千4百万円 親会社株主に帰属する当期純利益: 52億6千7百万円
会社設立	1955年(昭和30年)1月25日	従業員数	3,563名(グループ全体)
本社	東京都港区芝五丁目34番7号 田町センタービル	連結子会社	28社(国内2社、海外26社)

事業拠点一覧 (2016年7月1日現在)

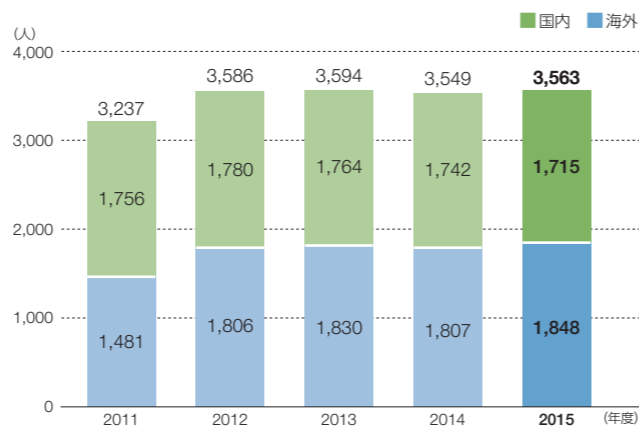


会社データ (連結)

地域別売上高比率(2015年度)



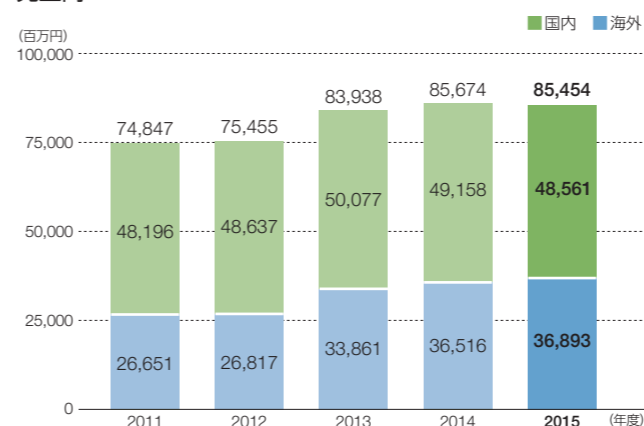
年度末従業員数



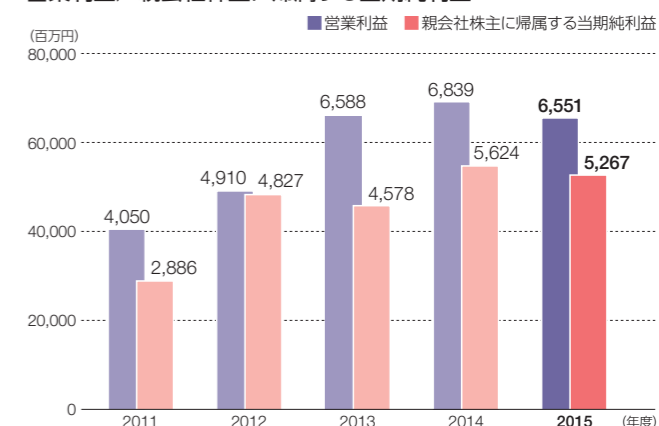
業績ハイライト (連結)

※記載金額は表示金額未満を切り捨てて表示しています。

売上高



営業利益/親会社株主に帰属する当期純利益



主な製品

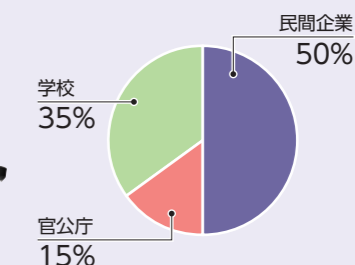
デジタル印刷機「リソグラフ」

孔版印刷の原理に理想科学独自の技術を融合させたデジタル印刷機です。1原稿当たりの出力枚数が増えるほどプリント単価が下がります。

2016年
「リソグラフ
SFシリーズ」
発売



国内マーケット別売上高(2015年度)



※「リソグラフSFシリーズ」は、2016年8月25日発売。

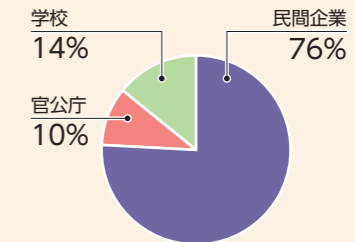
高速カラープリンター「オルフィス」

多枚数のカラードキュメントを高速かつ低ランニングコストでプリントできる、ビジネス用途のインクジェットプリンターです。

2016年
「オルフィス
FWシリーズ・
GDシリーズ」
発売



国内マーケット別売上高(2015年度)

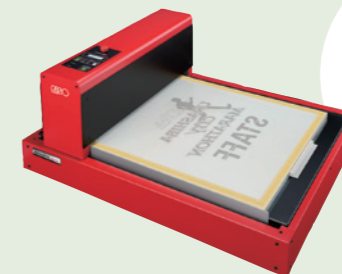


※「オルフィスGDシリーズ」は、2016年9月26日発売。

デジタルスクリーン製版機「ゴッコプロ」

水や薬品を使用しない「完全ドライ製版方式」のデジタルスクリーン製版機。プリンター感覚で、手軽に高解像度・高精度なスクリーンを製版できます。

2014年
「ゴッコプロ
QS200」
発売



1946-

"理想"の誕生と印刷器材メーカーへの道

- 1946 創業(理想社)
- 1955 株式会社理想科学研究所を設立
- 1963 理想科学工業株式会社に社名変更
- 1965 霞ヶ浦工場を設立

1977-

ハード開発に積極的に挑戦

- 1981 筑波工場を設立

1986-

先端技術を携え活躍の場を世界へ

- 1986 宇部工場を設立、アメリカに営業拠点設立
- 1990 商品開発研究所を設立
- 1997 開発技術センターを設立
- 1999 中国・珠海工場操業開始
- 2002 中国・深セン工場操業開始
- 2006 東証一部上場
- 2013 理想開発センターを設立
- 2015 タイ・アユタヤ工場操業開始

2003-

新世代カラープリントを提案



1954年
「RISOインク」開発



当時、輸入に頼っていたエマルジョンインクを日本で初めて独自開発。その品質は海外でも認められた。

1967年
「RISOファックス」発売



感熱式製版機「RISOファックス」と製版原紙の「RISOマスター」を発売。当時5～10分かかっていた製版作業を5秒に短縮。

1980年
「リソグラフ AP7200 / FX7200」発売



オフィス用プリンターの常識を覆した「リソグラフシリーズ」初の製品化。驚異の印刷速度と耐久性で大ヒット製品に。

1984年
「リソグラフ 007」発売



それまで分かれていた製版機と印刷機を一体化。コンパクトなボディで大量の印刷を高速かつ低コストで実現した。

1986- デジタル印刷機

1986年
「リソグラフ 007 デジタル」発売



アナログ方式だった感熱製版のデジタル化を実現。フープロからの直接印刷によって、ビジネス文書のプリントがさらに手軽に。

1994年
「リソグラフ GR・SR シリーズ」発売



インナープレス方式のSRシリーズは、強いプレス圧による全面ベタ印刷と高精細な細字印刷の両方が可能に。

2色印刷機発売開始

2000年
「RISO V8000」発売



業界初の製版印刷一体型2色印刷機。訴求力のある2色印刷が手間なく行える。

2004年
「リソグラフ RZ・MZ シリーズ」発売



2007年には国際エネルギースタープログラムに適合。

2003- 高速カラープリンター

2003年
「オルフィス HC5000」発売



世界最速、高速インクジェット方式のカラープリンターが誕生。

2013年
「オルフィス EX シリーズ」発売



平成25年度の省エネ大賞を受賞した環境配慮型プリンター。

1958年
「RISOグラフ」発売



当時使用されていた平枠式謄写版の問題点を解決した円弧型の謄写版を発売。

1972年
「RISOトラペンアップ / RISOオーバーヘッドプロジェクター」発売



製版の熱源をキセノンランプの閃光に変え、革新的な視覚機器として人気を呼んだ。

1977- 家庭用簡易印刷機

1977年
「プリントゴッコ B6」発売



家庭用の簡易印刷機「プリントゴッコ」は、発売後に爆発的な売り上げを記録。年賀状作りの常識を変えた製品となった。

1991年
「プリントゴッコ PG-10SUPER」発売



重ね刷りに便利な「位置合わせ」機能を搭載し、印刷の表現力が高まった。

2003年
「プリントゴッコ Jet V-10」発売



スキャナを装備したインクジェットハガキプリンターを発売。

環境への取り組み

- | | | |
|-----------------------------|----------------------------------|---|
| 1992 環境委員会発足 | 2000 筑波事業所 ISO14001 認証を取得 | 2006 国内事業所の全社 ISO14001 統合認証を取得 |
| インクボトルの回収・サマールリサイクル開始 | 2001 宇部事業所 ISO14001 認証を取得 | 2007 「リソグラフ」が国際エネルギースタープログラムに適合 |
| 1995 インクボトルのマテリアルリサイクル開始 | 大豆油インク「RISO SOY インク」を発売 | 2008 「環境経営報告書」英語版を発行 |
| 1996 環境対策室発足 | 2002 環境推進会議発足 | 2012 「オルフィス」梱包材のリターナブル輸送を開始 |
| 1997 インクボトル再生樹脂を活用した製品の生産開始 | 「製品環境報告書」を発行 | 2014 「オルフィス」が平成25年度省エネ大賞を受賞 |
| 1998 リサイクルセンター開設 | 「環境報告書」を発行 | 2015 「リソグラフ」でEPEAT 登録 |
| 環境用紙発売 | 2005 国内営業本部の5事業所で ISO14001 認証を取得 | 米ぬか油を使った孔版用インク「ライスインク」を発売 |
| 1999 「リソグラフ」のリサイクルを開始 | 「リソグラフ」でエコマークを取得 | 「オルフィス FW」がエコマークの相互認証を活用し、ブルーエンジェル認定を取得 |

2011- デジタルスクリーン製版機

2011年
「ゴッコプロ 100」発売



乳剤を使わずサマールヘッドでマスターに穿孔することで手軽にスクリーンを製版。

速くて・きれい!を実現する人にも環境にもやさしいインクを開発

高速カラープリンター「オルフィス」に使われているのは、理想科学が独自開発した油性顔料インクです。高速印刷に適したインクの特徴とともに環境や人体への配慮についてご紹介します。

世界一の速さと高い印刷品質を実現する独自の油性インク

世界一の印刷速度ときれいな仕上がりが特徴の「オルフィスシリーズ」は、速さと品質を両立させるために油性インクを使用しています。水性インクでは、印刷直後に用紙が水を吸収し、紙の繊維が伸びて発生する波打ちやカールなどの変形が出やすくなります。一方、油性インクは水性インクに比べ用紙への浸透性が高く、紙の繊維が変形を起こしにくいという特徴があります。用紙の変形が少ないことでスムーズかつ高精度な用紙搬送が高速に実行できるため、速く高品質な印刷が可能です。印刷直後の丁合、製本なども確実に行えます。



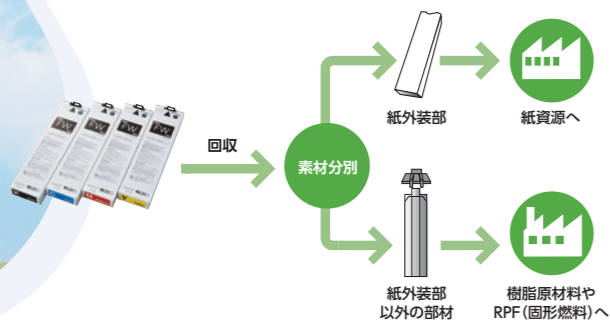
水性インクの場合は、波打ち・カール等の変形が起きやすい

油性インクの場合は、用紙変形が少ない!

TOPICS

インクカートリッジのリサイクルにも取り組んでいます

「使用済みの製品は廃棄物ではなく、貴重な資源である」との考えのもと、使用済みインクカートリッジの回収・リサイクルのしくみを整備し、再資源化に取り組んでいます。



人と環境への影響に配慮した製品づくり

理想科学は、高速印刷への適性が高く、さらに人体に安全であると同時に環境影響にも配慮した独自インクを開発してきました。

「オルフィス」のインクは、本体やオプション機器と同様にグリーン購入法適合、エコマーク認定商品、欧州RoHS指令など主だった環境ラベルや環境規制に対応しています。人体への影響にも配慮し、発がん性物質に変化する可能性のある特定アゾ着色剤も使っていません。

また、お取引先やお客様がインクを安全にお取り扱いいただくためにSDSやWebサイト上のFAQなどを通じて油性インクに含まれる化学物質の情報提供を行っています。

解説MEMO SDSとは?

Safety Data Sheet (安全データシート)の略。化学品の安全な取り扱いを確保するため、化学品の危険有害性、取り扱い上の注意、安全上の予防措置、事故に対する応急処置等に関する情報を記載した文書のこと。



SDS公開サイト
<http://www.riso.co.jp/company/eco/product/label/sds/>

さらなる安全をめざして— 「オ」ルフィス」新シリーズインクでは、TVOCにも配慮し、より安全で快適に

通常、室内空間には多数のVOCが混在しています。健康に悪影響を及ぼすことから、厳しく規制されている特定のVOCへの対策だけでなく、室内空間全体のVOCにも配慮することで、より一層安全で快適な環境を確保できます。そのため、理想科学では、作業環境となる室内全体のVOC総量(TVOC=総揮発性有機化合物)の低減に取り組みました。

2016年3月に発売された「オルフィスFWシリーズ」では、VOC発生量がより少なくなるよう、インク的设计を見直し、原材料の選定とインクの製造方法に新技術を導入しました。印刷作業によって室内に放散されるTVOCの低減に配慮し、より安全性と快適性が向上した油性インクを提供しています。

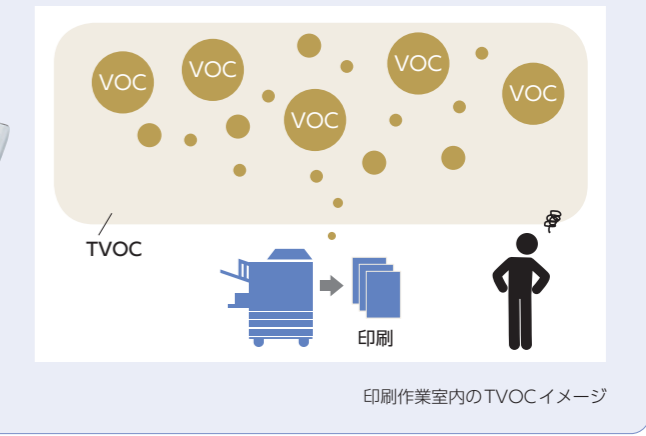


「オルフィスFWシリーズ」

「RISO FWインク」

解説MEMO VOCとは?

「Volatile Organic Compounds(揮発性有機化合物)」の略。WHO(世界保健機関)で「大気中に気体で存在する有機化合物のうち沸点が50~260℃の物質の総称」と定義され、建材や塗料・接着剤等から空気中に放散される特定のVOCが光化学スモッグやシックハウス症候群など人や環境に悪影響を及ぼす原因の一つとされており、VOCの安全性に対し諸外国で規制やガイドラインが強化されている。室内空間に存在するVOC全体の総量をTVOC(総揮発性有機化合物)という。



環境にやさしい油性インクとして新基準エコマークを取得

当社のオルフィス用インクは、インクに危険・有害とされる成分を含有していないこと、インクのSDSを提供していること、インクカートリッジの回収・リサイクルのシステムが確立していることなど、ライフサイクル全体を通して環境への影響が少なく、環境保全に役立つことが認められ、エコマーク商品としての認定を取得しています*。

とりわけ、室内に放散されるTVOCを低減させる設計を施した「RISO FWインク」は、2016年4月に改訂されたエコマーク認定基準「No.142インクカートリッジ Version2」に基づいたエコマーク認定を取得しました。新基準では、WHOやドイツをはじめとする諸外国の規制・指針を勘案し、TVOC放散の低減や資源循環に関する規定などが世界レベルに強化されています。

*「RISO HCインク」は除く。



エコマーク



エコマーク商品認定証

1. 認定商品	
(1) エコマーク認定番号	15 142 010
(2) エコマーク商品票型	No. 142 「インクカートリッジVersion2.0」
(3) 商品ブランド名	RISO FW インク

理想科学は、事業活動の全般を通じて、さまざまな環境負荷の低減に取り組んでいます。

開発・生産拠点で

孔版インクでは世界初の ライスインクを開発

理想科学は、環境に配慮した製品の開発に継続して取り組み、この度、孔版インクでは世界初となる米ぬか油を使用したライスインクを開発しました。

ライスインクはこれまで廃棄されていた米ぬか部分を有効活用し、食料を減らすことなくインクの原料を確保することで社会や環境への配慮につながっています。

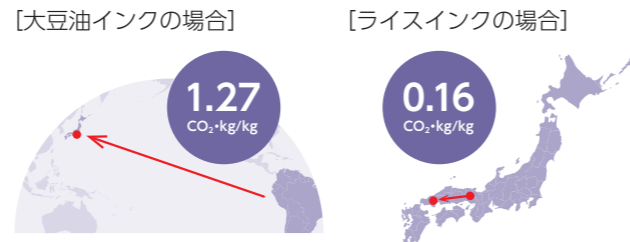
また、ライスインクは、国産の米から取れる米ぬかを原料としています。同じ植物を原料とする大豆油インクが原料の大豆を海外から輸入しているのに比べ、原料の輸送距離が短く、輸送に伴うCO₂排出量が削減できます。

※ライスインクは2016年8月より販売。

●ライスインク製造プロセス



●輸送に伴うCO₂排出量



※原料を原産地から当社インク工場まで輸送した場合の比較。数値は当社調査により算出。

調達・物流で

生物多様性を保つ木製パレットを使用

製品輸送に使用する木製パレットには害虫が潜んでいることがあり、特に海外輸出時は害虫が輸出先の国で繁殖し、生態系を乱すリスクが指摘され、国際基準で「防疫上適切な処理を行った木材を使用」することが求められています。当社は、熱処理もしくは燻蒸処理によって害虫が駆除されたパレットのみを使用しています。

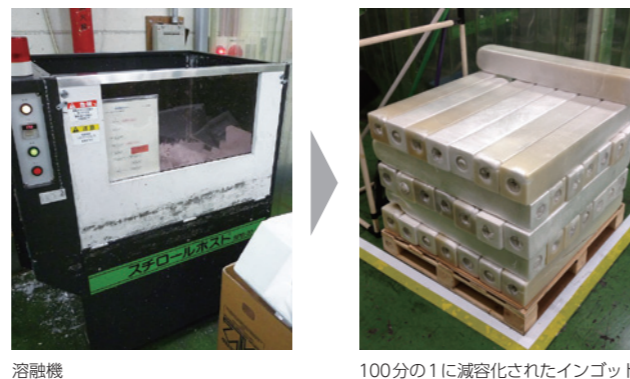


熱処理のマーキングが施されたパレット

製品梱包用発泡スチロールをリサイクル

製品の梱包などに使用した発泡スチロール製の緩衝材をリサイクルし、再資源化する取り組みを進めています。

回収した発泡スチロールは、電熱式の溶融機によって減容化され小さな塊（インゴット）となり、原材料としてプラスチックメーカーに出荷。そこで再び新しい発泡スチロールやプラスチック製品に加工されています。



溶融機

100分の1に減容化されたインゴット

営業サービス活動で

使用済みインクボトルで販促品を作成

理想科学では、当社の環境保全活動を広く認識していただき、使用済みインクボトルの回収にご協力いただくため、インクボトルをリサイクルしたバスケットやダストボックスなどの販促品を作成し、ユーザーの皆様にご提供しています。これらの販促品には、ボトル再資源化の流れを示したシールを貼付し、ボトル回収への協力を呼びかけています。



70ℓのゴミ袋対応ダストボックス

用具入れとしても便利なバスケット

使用済み製品・部品のリユースパーツ化

当社は、使用済みの製品も貴重な資源と考え、廃棄物削減と資源の有効活用に取り組んでいます。例えば、修理の際に交換したユニットの一部は当社のパーツセンターで回収・再生処理しています。品質検査を経て、再度市場で利用されています。

2015年度は、回収した使用済み製品や交換したユニット部品などのリユースパーツ化の拡大とその利用促進に積極的に取り組みました。



リユースパーツ

事業所で

ライトダウンキャンペーンに参加

当社は、環境省が地球温暖化防止の一環として毎年夏に日本全国で実施している「CO₂削減／ライトダウンキャンペーン」に賛同し、毎年参加しています。

2015年度も夏至の6月22日およびクールアース・デーである7月7日の2日間、午後8時から10時までの2時間にわたり、筑波事業所と宇部事業所で一斉消灯を実施しました。



ライトダウンキャンペーンポスター

クールビズの実施

省エネによる温暖化対策として、電機・電子関係の業界団体が定めた行動指針に則り、毎年夏には、冷房温度を28℃とするとともに軽装での執務を奨励するクールビズを実施しています。

また、当社を訪問されるお取引先にも軽装での来社をお願いするとともに、告知・啓発用のポスターを作成し、社員一人ひとりの参加意識を高めています。



COOLBIZポスター

理想科学は、社会への責任を果たすために、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを深め、連携を心がけながらさまざまな活動を行っています。

お客様の満足のために

コンテストを通して CEの技術力・サポート力を向上

修理や保守点検に迅速に対応し、より良い印刷環境の提案を担うカスタマーエンジニア(CE)は、理想科学とお客様との信頼関係の要となる存在です。当社では、CEの専門知識・技術力・顧客対応力の向上を目的に「RISO TECHNICAL CHAMPIONSHIP」を開催しています。

2016年1月に第13回全国大会を開催。全国で1,000名を超える参加者の中から地区予選を勝ち抜いた27名が出場し、筆記・機械のトラブルを解決する実技・スピーチの各試験に挑み、スキルを競い合いました。



実技試験の様子

安全に製品を使っていただくために SDS(安全データシート)をWebで公開

お客様により安全に製品を使っていただけるように、理想科学ではWebサイトやカタログなどを通じた製品関連情報の積極的な開示を行っています。インクやマスターなど、製品に含まれる化学物質情報やお取り扱い上の注意などを記載した「SDS(安全データシート)」を2015年度からはWebサイトからも入手いただけるようになりました。



SDS公開サイト
<http://www.riso.co.jp/company/eco/product/label/sds/>

Column

「理想のTシャツコンテスト」を開催し お客様とのコミュニケーションを 推進しました

「理想のTシャツコンテスト」は、自分にとっての「理想のTシャツ」をデザインし、当社製品のデジタルスクリーン製版機「ゴッコプロシリーズ」を使ってTシャツを制作するコンテストです。応募者自ら自慢のデザインをTシャツに印刷、巡回展示を行って来場者による投票と審査員の評価によって各賞を決定しました。デジタルスクリーン製版機によるシルクスクリーン印刷の手軽さや楽しさについて、一般来場者の方ともコミュニケーションを深め幅広く知っていただく良い機会となりました。



「ゴッコプロ100」



巡回展示の様子

作品ギャラリー >> <http://www.riso.co.jp/tcon2015/gallery.html>

働きがいのある職場環境をめざして

両立支援制度を整備し ワークライフバランスを充実

社員一人ひとりの充実が組織の活性につながるという考えのもと、出産や育児、介護等で勤務時間や勤務内容の変更が必要になった場合でも、仕事と生活の両立ができるよう「育児休業」や「介護休暇」など各種制度を整備し、女性・男性社員ともに安心して仕事ができる環境づくりに努めています。

当社は、2011年に子育てサポート企業としての認定を受け、次世代育成支援企業認定マーク「くるみん」を取得して以降、育児休業の取得や有給休暇取得推進のための意識啓発など行動計画を着実に実施し、その取り組みが評価され、2013年、2015年と継続して更新取得しています。

2015年度は、育児休業制度利用者が40名(うち男性1名)で、延べ3,852日取得しました。育児休業から復職する社員に対しては、仕事と育児を両立するためのポイントや復職後の生活スタイルについて、実際に復職を経験した先輩社員からアドバイスが受けられる「復職支援セミナー」を実施、9名が受講しました。



次世代育成支援企業認定マーク
「くるみん」



「復職支援セミナー」の様子

行動計画を策定・周知し 女性のさらなる活躍を推進

理想科学は、従業員の多様性を尊重し、性別や国籍などにかかわらず一人ひとりが能力を発揮できる組織風土づくりをめざしています。2016年3月には、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)」に基づく「行動計画」を策定・社内外に周知し、女性の活躍促進に向けたさらなる取り組みを進めています。

女性活躍推進法に基づく行動計画

女性がいきいきと働き続け活躍するために、次のように行動計画を策定する。

1. 計画期間
平成28年4月1日～平成33年4月1日
2. 目標と取組内容・実施時期
女性社員の平均勤続年数を2021年4月1日時点で15年以上とする

【取り組み内容】

平成28年4月～	<ul style="list-style-type: none"> 女性社員向けのキャリア研修を実施する 女性社員の上司へのマネジメント研修を実施する 女性管理職による横断的個別キャリア相談支援を行う
平成29年4月～	<ul style="list-style-type: none"> 一般職から総合職へのキャリア転換促進支援研修を実施する

「特別報奨」制度を通じて 社員のモチベーションを向上

当社では、働く人のモチベーション向上と組織の活性化を支援することを目的に「特別報奨」制度を設け、優れた製品の開発や品質改善などを実現した部署や個人を表彰しています。

2015年に第15回目を迎えたこの制度には、毎年多くの応募が寄せられており、今年は64名が表彰されました。今後も、社員の意欲を引き出せるよう活動を継続していきます。

地域社会の一員として

鹿島アントラーズへのサポートを通じ 地域のスポーツ振興を応援

2016年2月、理想科学の製造や開発の中心拠点がある茨城県の鹿嶋市を本拠地とするプロサッカークラブ「鹿島アントラーズ」と、2016年シーズンのクラブオフィシャルスポンサー契約を結びました。

ユニフォームシャツやホームスタジアム看板などへの企業ロゴマーク掲出をすることで、当社ブランド価値の向上をはかります。応援を通じて茨城県のスポーツ振興と地域活性化に貢献していきます。



© Kashima Antlers

「道路の里親」として、 清掃や除草活動を実施

理想開発センターは、所在地である茨城県つくば市が展開している「道路の里親」制度に参加しています。この制度は、事業所周辺の市が管理している道路を市に代わって清掃や除草、花壇の手入れを行うものです。

2013年11月の参加以来、歩道の清掃活動を継続的に実施するなど「里親」として沿道の美化と環境保護に貢献しています。



理想開発センター周辺の市道清掃

企業市民として地域に根差した 社会貢献活動を展開

●大雨水害の災害ボランティアに参加

2015年9月、台風18号などの大雨による水害で大きな被害を受けた茨城県常総市の被災者支援を行うボランティアに当社社員3名が参加。床上浸水した家屋で畳の取り外しや泥水の除去などを実施しました。

●「しづやの日」一斉清掃に協力

渋谷区では、毎年4月28日を「しづやの日」と定め一斉清掃を行っています。理想科学では7年前より渋谷支店の社員が一斉清掃に協力しており、2015年度も2名の社員が参加しました。



清掃活動の参加者

●義援金の寄付を通じた地域貢献

2015年度は、国内外で起こった大規模な被害を受けた被災地の復興と被災者支援を目的に、理想科学として義援金の寄付を行いました。

- 2015/5/15 ネパール地震災害に対して
- 2015/9/24 台風18号等による大雨災害に対して
- 2016/4/27 熊本地震災害に対して

箱根駅伝の号外印刷に 「オルフィス」が活用されました

2016年1月、第92回箱根駅伝(東京箱根間往復大学駅伝競走)において、レース結果を速報する号外の印刷に理想科学の高速カラープリンター「オルフィス」が活用されました。大会を共催する読売新聞社と協力し、現地で号外の記事を編集し、その場で「オルフィス」によって素早く印刷。往路と復路それぞれのゴール付近で観戦していた多くの方々に速報として配布しました。



ゴール付近で配られた号外

海外での取り組み

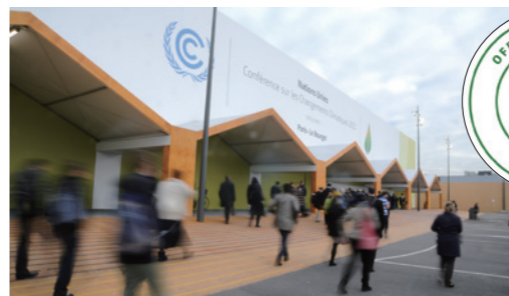
各国の文化や習慣を尊重し、環境保全をはじめとする地域社会に根づいた活動を展開しています。

フランス



公式パートナーとして COP21をサポート

RISO FRANCEは、2015年11月から12月にかけてパリで開催された国連の「COP21(気候変動枠組条約第21回締約国会議)」のオフィシャルパートナー企業に選定されました。高速印刷と高い省エネ性能を両立させた高速カラープリンター「オルフィス」8台によって会議で使用された条約・契約に関連する約300万枚におよぶ印刷物の出力と保守サポートを担うことで、COP21の成功を支えました。



COP21会場



コピーセンターに8台設置された「オルフィス」(現地販売名はComColor)



当日印刷された資料(左がアラビア語版、右が英語版)

韓国



観光地の清掃活動を実施

RISO KOREAでは、たくさんの人々が訪れる観光地や文化財など、日常的な環境整備が欠かせない地域の清掃や環境保全活動を2010年度より毎年実施しています。2015年10月には、ユネスコの世界文化遺産にも登録されている南漢山城周辺の清掃活動を行いました。



清掃活動の参加者



清掃活動の様子

Column

アメリカ



デジタル印刷機「EZ221U」 EPEATのシルバー基準に 登録されました

米国の政府調達要件にも採用されている環境評価システムEPEAT(Electronic Product Environmental Assessment Tool)の画像機器分野において、デジタル印刷機「RISO EZ221U」が、「シルバー」基準に登録されました。環境負荷の低い原材料の使用や設計、回収・リサイクルに至るまでの製品ライフサイクル全般におよぶ環境配慮と環境負荷に関するデータ開示、企業としての環境活動などの項目が評価され、今回の「シルバー」基準登録となりました。



「RISO EZ221U」



EPEAT(シルバー)のロゴ



理想科学は、社会から認められ信頼される健全な企業運営をめざし、経営体制の継続的な改善・強化に努めています。

コーポレートガバナンス／コンプライアンス／リスクマネジメント

コーポレートガバナンス

当社は、監査役による監視・監督のもと、取締役会が業務執行についての重要な意思決定を行うガバナンス体制を採用しています。

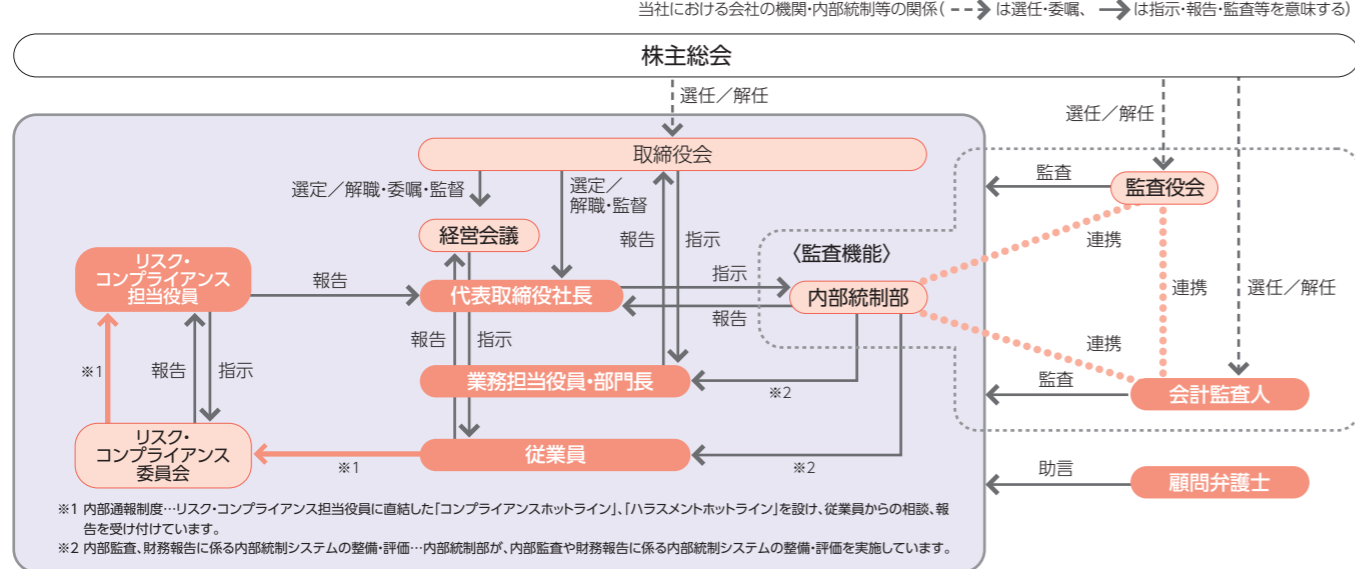
内部統制システムの整備・評価の実施部門として内部統制部を設置し、「内部監査規程」に基づき、工場、営業拠点および子会社等の会計・業務監査を行っています。

法規制の遵守

当社は、コンプライアンスを企業経営の基本とし、法令や社内規程を遵守するとともに、社会倫理や道徳を尊重し、社会の一員であることを自覚した事業活動を行うよう努めています。

2015年度の当社の法規制および法規類の監視・測定、遵守評価の結果、全て遵守していることを確認しました。行政機関から罰金や行政指導は受けておらず、また地域社会より環境に関わる苦情等も受けていません。

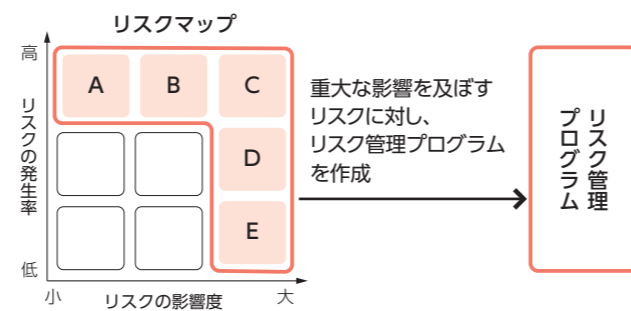
コーポレートガバナンス体制図



リスクマネジメント体制

当社は、会社法の定めに基づき「損失の危険の管理に関する規程」を制定しています。重要な業務は、執行に伴うリスク分析や対策の検討をしたうえで、経営会議や取締役会で審議・決定します。また、「リスク・コンプライアンス委員会」を設置し、当社グループを取り巻くさまざまなリスクが発生した場合の影響度などを分析・評価して、「リスクマップ」を作成しています。グループ経営に重大な影響を与えるリスクについては、個別にリスク管理プログラムを策定し実行することで、リスクの低減・回避に努め、統合的なリスク管理と体制整備を推進しています。

リスク管理の概要



詳細はWebサイトに掲載しています。 >> 「企業情報／マネジメント」 <http://www.riso.co.jp/company/management/>



理想科学は、環境管理の組織体制・制度を整備し、中長期の目標を設定して継続的に活動を展開しています。

2020年度全社環境目的(中期環境目標)の進捗

企業の成長と温暖化対策の両立をめざす産業界を挙げての取り組みである「電機・電子業界低炭素社会実行計画」への加盟に伴い、同計画を踏まえた「2020年度全社環境目的(中期環境目標)」の達成に向けて単年度ごとに目標を設定し、環境負荷低減活動の進捗を管理しています。

2020年度全社環境目的(中期環境目標)

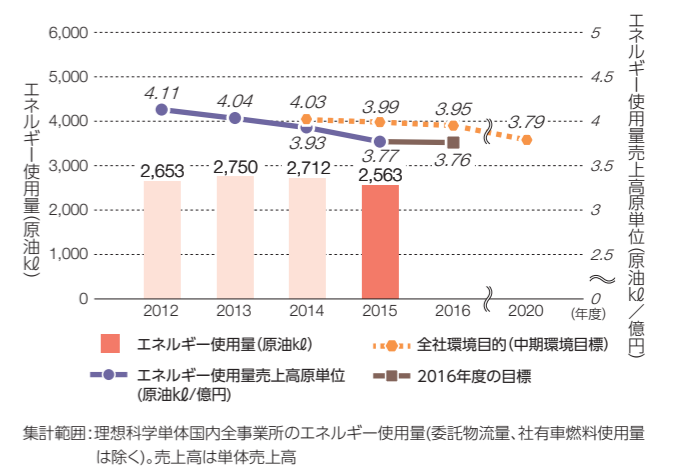
◆エネルギー使用量(原油換算)の削減

国内全体で

>> 2020年度においてエネルギー使用量単体売上高原単位を**3.79原油kℓ/億円以下**にする

(2014年度から2020年度までのエネルギー原単位改善率を年平均1%と定める。達成の判断は、基準年度(2012年度)比で2020年度に7.73%以上改善する)

全社(国内)エネルギー使用量および売上高原単位の推移



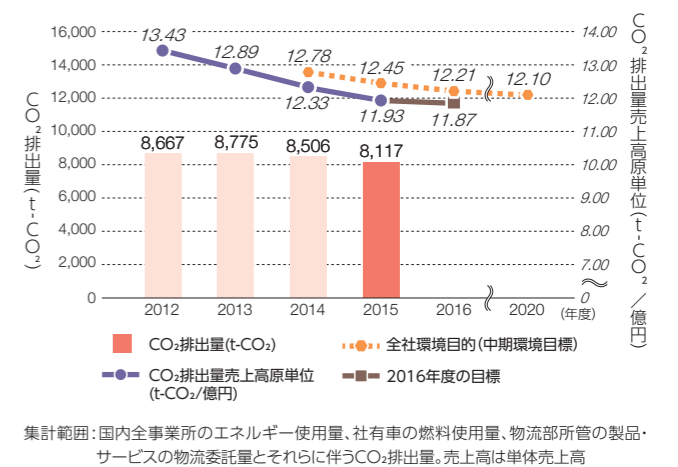
◆CO₂排出量の削減

国内全体で

>> 2020年度においてCO₂排出量単体売上高原単位を**12.10t-CO₂/億円以下**にする

(エネルギー使用量単体売上高原単位の3.79原油kℓ/億円をCO₂排出量単体売上高原単位に換算した数値に、物流と社有車のCO₂排出量を含めた値)

全社(国内)CO₂排出量および売上高原単位の推移



2015年度の実績

2015年度も省電力に重点をおいた取り組みを継続しました。エネルギー効率の高い設備への更新、屋根の遮熱塗装を行うなど積極的な投資を行い、2014年度比でエネルギー使用量単体売上高原単位で4%、CO₂排出量単体売上高原単位で3%改善しました。今後も、上方修正できるよう環境負荷の低減に向けて活動していきます。

詳細はWebに掲載しています。 >> 「2015年度の取り組み」(データブック) http://www.riso.co.jp/eco_report/
「環境への取り組み／環境マネジメント体制」 http://www.riso.co.jp/eco_management/

Webサイト掲載情報

理想科学は、環境経営、事業活動に関するより詳しい情報をWebサイトに掲載しています。

環境経営報告書

http://www.riso.co.jp/eco_report/



>> **環境経営報告書(本書)**
本冊子をPDFデータ、電子ブックで掲載しています。



>> 環境経営報告書(データブック)

- 環境関連データ
- 環境会計
- 主要事業所の環境データ
- 社会関連データ
- 環境報告ガイドライン対照表

その他の情報開示・コミュニケーションツール



>> **会社案内**



>> **株主通信**

>> **コーポレートガバナンスに関する報告書**

>> **決算短信**

>> **有価証券報告書/内部統制報告書**

理想科学Webサイト

<http://www.riso.co.jp/>

製品情報のほか、理想科学からのお知らせなど最新情報を提供しています。



>> 企業情報

- ごあいさつ
- マネジメント
- あゆみ
- 株主・投資家情報
- 会社概要
- 事業拠点一覧
- 採用情報



>> 環境への取り組み

- 環境保全のための理想科学の基本方針
- 環境保全に向けた取り組みと実績
- 製品の環境対応
- 環境経営報告書



>> 社会とのかかわり

- お客様とのかかわり
- サプライヤーとのかかわり
- 株主・投資家とのかかわり
- 地域社会とのかかわり
- 社員とのかかわり
- 一般事業主行動計画
- 経営体制

広報誌「理想の詩」



コミュニケーションをテーマにさまざまな情報をお届けしています。

● 広報誌の購読について

Webサイトの申し込みフォームまたは、ハガキで受け付けています。

第三者審査報告書

理想科学は報告書の信頼性および客観性を高めるために、報告内容について第三者からご意見をいただき、そのご意見を報告書の制作に反映しています。本年度も昨年までと同様に、テュフ・ラインランド・ジャパン株式会社による第三者検証審査を受けました。今後も、報告内容の正確さ、わかりやすさを追求するとともに、開示情報の充実にも努めていきます。

「理想科学工業 環境経営報告書 2016」第三者審査報告書



理想科学工業 株式会社
代表取締役社長 羽山 明 殿

2016年7月15日
テュフ・ラインランド・ジャパン 株式会社
代表取締役社長 ホルガー・クンツ

1. 審査の範囲及び目的並びに対象、審査の手続き、結論

テュフ・ラインランド・ジャパン 株式会社(以下当審査機関という)は、理想科学工業 株式会社(以下、組織と言う)が作成した「理想科学工業 環境経営報告書2016」及び「WEB掲載の環境データ」に関して、

- 環境報告及び環境パフォーマンス、環境会計に関する情報にて、算出、集計方法の合理性と数値の信頼性及び、記載内容の妥当性
- 環境報告にて、重要な情報が洩れなく開示されているか

について、独立した第三者機関の立場から審査を行いました。審査目的は、その結果を報告し結論を述べることです。

なお、審査基準として、環境省 環境報告ガイドライン及び環境報告書作成基準、GRIガイドライン、を参考としていますが、ガイドラインへの準拠性を認証するものではありません。

審査手続きを計画通りに実施し、審査の過程で要求した是正処置が適切に実施されることを約束された結果、当審査機関は、『理想科学工業 環境経営報告書2016』及び『WEB掲載の環境データ』が、一般に公正妥当と認められる環境報告書作成ガイドラインの一般的報告原則に照らして、正確に数値算出されていると結論致します。

2. 審査総評

従前より非財務情報開示の中心に環境経営情報の開示を据え、CSR関連の情報を順次充実させてきた歴史の中で、原材料から製造プロセス、製品の使用段階、そして、廃棄・リユース・リサイクル、に亘る環境配慮を推進し、理想の製品をユーザーに届ける姿勢を多面的に実践されてきたと考えます。70周年を迎えるこの年に歴代の製品を振り返り、これからも変わらぬ姿勢で理想の製品を創り続けることを期待します。

理想の製品を追い求める姿勢が垣間見えるテーマとして、コア技術の一つである「インク開発技術」の中でインクに必要な油成分を大豆由来の油(大豆インク)から米ぬか由来の油(ライスインク)に順次変更していくという取り組みがあります。食物としての需要と競合する大豆から米ぬかに原料を変更することによって食糧問題に配慮し、国内産の米ぬかを使用することで輸送時のCO₂排出を抑制するという多面的な考えです。1つの側面だけでなく、多面的に見ても社会的責任の要請に応える姿勢が評価されるべきと考えます。

環境関連

まず環境マネジメントについて、PDCAをしっかりと回した環境経営ができていたことが本報告書から読み取れます。例え

ば、本冊子18頁及びデータブック図表1にその概要が説明されています。中でも特に、2016年度は生産増加に加えて開発の先行投資等によりエネルギー使用量が増加するものの原単位では改善させるという確固たる意志を掲げられたことは評価に値します。

次にデータの収集・集計および報告の過程を含むデータの正確性について、十分な信憑性を確認しました。例えば、コミュニケーションに苦勞しがちな海外事業所の経年データが前年比10%を超えて変化している場合は理由説明を附加して報告してもらった仕組みを評価します。またハード製品の回収量データでは今回から実測値を使用しています。従来は回収した台数に平均値を乗じた概算数値でした。(なお、概算数値でも±1%の誤差範囲で推移していることも検証できたことを申し添えておきます。)特に、過去報告した数値に間違いがあった場合、率直に修正してその旨説明する姿勢およびその原因を究明して再発防止する仕組みを構築していく姿勢も評価します。

また改善事項の説明に加えて、マイナス要因も情報開示してしっかり説明責任を果たしていることを評価します。本報告書の随所にこうした姿勢が見られます。これによりPDCAがしっかり回り今後とも継続的改善が大いに期待されます。

最後に今後への期待として、一層の環境配慮型製品のグローバルマーケットへの提供促進及びグローバルな視点での環境負荷の一層の低減へ向けたマネジメントをお願いします。

社会的な取り組み関連

今年の冊子版から国内の全社員に対して配付を行い、冊子自体の印刷インクも上記で紹介した米ぬか由来の油(ライスインク)に変更されています。製品に関する環境配慮というテーマへの関心は年々高まり、社員一人一人が環境経営と製品に関する配慮をより一層理解することの重要性を認識し、ユニバーサルデザインのような読者への配慮を大事にする姿勢に好感を持ちます。今後は、海外の生産拠点や販売会社共に発展していくために海外拠点の社員と向き合い、海外での取り組みの有効性を高めつつ、CSR情報に読者が親しむ状況をWEB情報も含めて総合的に整備されることを期待します。

環境会計関連

環境会計情報の集計プロセスを有効に維持し、重要な事業や拠点における環境リスクを貨幣情報で表現すること、環境配慮性能にまつわる貨幣評価を行うなど、環境会計を応用したメリットとリスクに関する表示に期待します。

以上

審査報告書全文は、Webサイト上に掲載しています。